

諦崇寺報

諦崇禅寺 発行
藤井崇文 編集
〒631-0065
奈良市鳥見町
2丁目28-10
0742(37)2569
www.rittouji.jp

道元禪師さまがお聞きになった曹洞宗とは、坐禅だけではない、修行(坐臥)日常生活(すべて)が修行の場です。今号では、料理を作る人の心構えを説いた『典座教訓』からお話をいたします。

そのさまの姿で、 仏さまになる

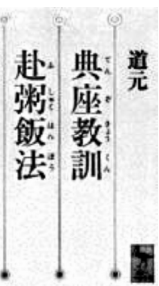
唐突ですが、皆さんはお米を研いで、その研ぎ汁を捨てるとき、どうしていますか？
私のやり方は、「手を添えつつお釜を傾けて、米粒がこぼれなように研ぎ汁を捨てる」ですが、同じようにしている方も多いため、はないかと思えます。

そうすると、米粒をいぼけながらよじ気を付けているつもりでも、食事の支度を急いでいたり慌てていたりして、何粒がお米をこぼしてしまっていることがあります。
もちろん、流しの上で止まった米粒はよく洗ってお釜に戻します。ですが、排水溝に流れてしまった場合はどうでしょうか。

「もったいないことをしたなあ。」
と思いつつも、「まあ二三粒だし、汚れているからうから、まあいいか。」

『典座教訓』 赴粥飯法

道元 著
中村 璋八他 訳
一九九一年・講談社学術文庫
九四五円(税込)



典座は僧堂において僧侶の食事を司る重要な役職。その心構えを説いたのが『典座教訓』。『赴粥飯法』は食事の作法も意義が記されています。

いひかねあ。」「なんて言い訳して米粒を捨てるに捨ててしまっているのではありませんか？」

『典座教訓』には「お米を研ぐときは『水囊』を使いながら。」と記されています。「水囊」とはお米の研ぎ汁を濾すために使う、布で作った袋です。
手を添えて研ぎ汁を捨てると、どんな気をつけても、米粒をこぼしてしまっている可能性があります。それだったら先に「水囊」を用意する、これはどうも理に適っています。

けれども、八〇年前のお坊さんである道元禪師さまが、料理に關して、「お米の研ぎ方まで詳しく細やかに記されていたなんて、皆さんも驚きませんか？」
現在の料理本であっても、「水囊を使いながら。」とまでは書かれていないです。お坊さんと料理を作る人とは、離れた立場にあると考えると、驚きませんか？

「仏教」といって、とかく大きな表現になったり、雲を掴むような感じを受けたりしてしまう方もあるかも知れませんが、料理を作るという日頃の営み、身近なものでも、坐禅を組みるときと同じように丁寧に真剣に取り組まなくてはならない、と道元禪師さまは仰っているのです。

そうすれば、料理に取り組む姿そのものが仏さまになっていく、包丁を持つ姿そのものが仏さまになっていく、と云っているのです。
坐禅を組みるときお経を唱えることだけが「仏教」ではなくて、料理を作る、お風呂に入る、学校に行く、会社で働く、それら日常生活すべてにおいて真剣に丁寧に取り組めば、そのさまの姿が仏さまになっていくのです。

それは、「仏さまになる」とは、どういふことでしょうか。

それは、「自分の命や自分以外の命を大切にすること」です。
例えばお米を研ぐとき、一粒のお米も無駄にしない。それはお米の命を大切にしているだけでなく、お米を生産している方の命も大切にすることになりますし、私たち自身の命も大切にすることもなります。

また私たちに命を授けて下さったご先祖さまの願いを大切にすることも繋がります。
そうして「お互いに、そのさまの姿で仏さまになっていく」のが仏さまの教えでもあります。

現代は「個人の時代」と言われます。しかし、自分勝手に振る舞うことと本当に自分の命を大切にすることは違っています。
例えば、自分の好きなように食べ過ぎるのは身体に良くないし、食えないのも良くない。それだけを見ても「本当に自分の命を大切にすること」といえるなかなか難しいものです。



私たちが「お仏壇を拜むこと」本来の姿勢は、お仏壇にお祀りしている仏さまや先祖さま、そして自分という仏さまに「自分の命や自分以外の命を大切に大切にします」と手を合わせ、改めてお誓いすることです。

仏教と日常生活は決して離れているものではないです。日常生活こそ仏さまの教えを修行する場所であり、仏さまの姿になっていく実践の場所でもあります。
仏教はお坊さんに任せておけばよいのではなく、皆さんと一緒に仏さまになることで、仏さまの教え、ご先祖さまの願いであり、それに応えられる私たちがあつたと思えます。

栗東寺ホームページ
http://www.rittouji.jp/

草駄天さま

草駄天さまは、寺院において僧や齋供(食物)の守護神となられ、庫院(厨房)にお祀りされています。身体に甲冑をつけた武者の姿で、合掌した腕には宝剣や宝棒を持っておられます。

速く走り去ることを「草駄天走り」とか「草駄天のごとく」と言いますが、草駄天さまが仏教を妨げる魔鬼を眼にも止まらぬ速さで退治したことから例えられたものなのです。

曹洞宗の大本山である永平寺では、朝課の後に草駄天諷経(誦経)を行います。また朝と昼の食事を庫院から僧堂へ食事を運ぶ際にも

草駄天さまの前で僧食九拜という法要を行います。

僧堂の台所である庫院に草駄天さまをお祀りするのは、出菜上がった食事を早く届けたい、もしも火事が起こったときは早く消火したいとの願いが込められているからだと言われています。



あごかみ

皆さまが励ましのお声を下さり、何とか三号に辿り着きました。皆さまに有り難く思っています。バックナンバーは栗東寺のホームページにあります。 崇文 拜